

＜学校経営計画「本年度の取組」＞ ～大人になる練習をし、夢をかなえる土台を築く生徒の育成～（キーワード:「信頼」「温もり」「笑顔」） 1「疑問をもち、考え抜く力」の育成 2「思いやりのある心と行動力」の育成 3「一歩前に踏み出し、粘り強く取り組める力」の育成 4「連携による学校力」の向上								
--	--	--	--	--	--	--	--	--

項目	本年度の重点	具体的な方策	評価	数値目標	分析結果	改善策	学校運営協議会委員からのコメント	評価
確かな学力	「疑問をもち、考え抜く力」の育成	①話し合いや教え合いの場面を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善。 ②各教科等問題解決的な学習や体験活動を通して、「協働的な学び」と「対話的な学び」の充実。 ③一人1台タブレット端末等を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実。	2	※授業評価で以下のA～Eの項目において肯定的評価80%以上、Fの項目において肯定的評価70%以上を目指す。 A 毎時間の「ねらい」や4つの視点が授業で示されている➡87.6% B 毎時間のまとめの時間や学習を振り返る時間が設けてある➡88.2% D 自分で考えたり、調べたり、発表（表現）する場面が設けてある➡89.5%□ E 生徒同士で話し合ったり、教え合ったりする時間がある➡86.2% F chromebookを活用する場面がある➡54.7%	①教員自己評価で94.5%が話し合いや教え合い活動を取り入れ、生徒主体の授業を進められた。 ②他者対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造することにつながった。後期学校評価項目「総合的な学習の時間は、自分で課題を設定し、まとめる力や伝える力の向上に役立っている」の生徒肯定的評価は93.5%となった。 ③教員自己評価で55.3%がタブレット端末を授業であまり活用していないと回答していた。	①生徒主体の授業づくりのため、話し合いや教え合いの質を高め、深い学びへとつなげていく。 ②教科や総合的な学習の時間での体験的な学習や外部人材を活用した授業を行う中で、新たな価値や考えを構築させる。 ③年度当初に単元計画の中に、有効活用できる場面を設け、教科や学校全体で活用を図っていく方策を構築する。	△タブレット端末は、生徒が疑問に思った際の検索ツールであったり、自分の考えを表現するに当たって活用する一つ的手段として考え、全員が同じ頻度で使用する必要はなく、疑問について考える方法としてタブレット端末以外のいろいろな方法があっても良いと思います。 △参観させていただき、一方的な授業ではなく、質問や対話を重視した授業が多く感じた。タブレット使用については、継続課題だと今年の自己評価を見ても感じました。 ○学校全体で常に問いかける指導が、少しずつ生徒へ浸透している様に感じる ○昨今、コミュニケーションの仕方が不得意な生徒が多い中、この取り組みは非常に良いと思う。	3.3
豊かな心	「思いやりのある心と行動力」の育成	①暴力やいじめを許さない人権尊重教育の推進を通して、心豊かで他者を尊重する生徒の育成。 ②教育活動全体において、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を実践し、生徒の自己指導能力の育成を図る。 ③道徳科を軸に心の教育を充実させ、自己の生き方、在り方の学習を通して、自己実現を目指す態度を培う。 ④カリキュラム・マネジメントの視点で地域や近隣高等学校、大学、専門学校等との連携を一層充実させ、体験学習やボランティア活動等を推進し、地域社会の一員として自覚できる生徒の育成を図る。	3	※学校評価で以下のA～Dの項目において肯定的評価85%以上を目指す。 A 学校や学級に行くのが毎日楽しみですか➡76% B 道徳の授業は自分自身の心の成長に役立っていますか➡86% C いじめや暴力のない学校にするよう意識していますか➡95% D 将来の進路や生き方について考えていますか➡66%	①いじめに関しては、学校全体で組織的に対応できた。生徒後期学校評価での肯定的評価は95.9%、保護者の数値も前期より6.5%上昇した。また、思いやりの項目の生徒肯定的評価は93.7%となった。 ②教員後期学校評価の自己指導能力の育成項目の肯定的評価は94.4%であった。特に「自己存在感の感受」と「共感的な人間関係」は100%となった。 ③道徳についての生徒後期肯定的評価は86.1%となった。全学年でのローテーション道徳や、考え、議論することで実践できるような資質・能力を育むことができていると感じる。 ④近隣専門学校や外部講師等の活用を英語科、保健体育科で行った。後期学校評価ボランティア項目の肯定的評価は生徒85.6%、保護者90%となった。	①未然防止の観点での指導の充実と、学校・家庭と連携した取組を推進する。また、道徳授業地区公開講座で、弁護士等専門家の話を聞く機会を設ける。 ②今後も、教育活動船体を通じて自己指導能力の育成を推進していく。「自己決定の場の提供」の項目が88.9%であるため、教員が授業等でも意識をして取り組んでいく。 ③教員後期学校評価の肯定的評価は77.8%であった。ローテーション道徳で書く教員の得意分野等を生かしながら、より深く考えさせる発問の仕方等を工夫していく。 ④地域や近隣の教育資源の活用を一層推進し、さまざまな人と関わる中で自己有用感を高めながら地域のかとなる生徒を育成していく。	△「自分が必要とされた」と実感できる場面を多く体験させてあげたい。 △優しく思いやりだけでは他人の意見に左右されやすいので、しっかりと自分の意見を相手の気持ちになって伝えるよう指導していければ幸いです。 ○ボランティア活動に積極的に参加している生徒が多く、非常に素晴らしいと思います。また、道徳にこれほど力を入れていることは、生徒たちの豊かな心の成長の一助になっているものと思います。 ○ボランティア参加が定着してきていて、生徒も楽しそうに参加している姿を多く見ることができ、他者への思いやりの心は他校のモデルになると感じています。	3.8
健やかな体	「一歩前に踏み出し、粘り強く取り組める力」の育成	①行事や生徒会活動など、生徒が主体となって取り組み自己肯定感や自己有用感を育む活動を充実させる。 ②基本的な生活習慣を主体的に身に付けさせるとともに、健康と安全についての理解を深めさせる。 ③教育相談機能を充実させ不登校・特別支援教育など、健全育成上の課題に対してきめ細やかな対応を図る。	3	※学校評価で以下のA～Gの項目において肯定的評価85%以上を目指す。 A① 学級での係活動や委員会活動に積極的に取り組みましたか➡92.5% A② 学校行事に意欲的に取り組みましたか➡95.5% B 自らすすんで挨拶をしていますか➡87.5% C 人の話を聞く態度ができていますか➡93.0%□ D いつも善悪の判断をつけて行動していますか➡94.0% E 清掃にまじめに取り組んでいますか➡96.5%□ F 家庭で保護者と、スマホやパソコンなどの安全な使用やルールをしっかり話し合っていて決めていますか➡80.0%□ G 学校はあなたの悩みや相談に適切に応じてくれますか➡88.0%	①生徒後期学校評価の行事、係・委員会活動への取り組みの肯定的評価は94.9%となった。生徒の思いをカタチにできるようにと教員も関わっていることが要因の必要だと考える。 ②生徒後期学校評価の挨拶・話を聞く・善悪の判断・清掃の項目の肯定的評価は91.5%となった。避難訓練等も自身の身の安全を守る行動等をとることができている。 ③後期学校評価の学校への相談項目の肯定的評価は生徒89.8%、保護者88.5%、学校に行くのが楽しみの肯定的評価は生徒76.6%、保護者84.5%であった。	①よりよい学校の環境や生活を自分たちの手で創っているという思いをもてるように、今後も生徒の様々な提案（思い）をカタチにしていく。 ②挨拶については、教員の肯定的評価は55.6%となっている。教員自身の率先垂範と生徒へ挨拶を行うことの意味を伝えていく。 ③学校に行くのが楽しみではない生徒が7.8%いることから、一人ひとりを大切にすることや居場所づくり、相談機能を一層充実させる。	△アンケートにおいて、「学校に行くのが楽しみか」の設問に対して、生徒と保護者の結果に10%近い乖離があるなど、家庭でも生徒それぞれの抱えている悩みなどは把握するのは難しい状況があるのだろうと感じました。 △なかなか一歩踏み出せない生徒に対して、今後も視点を変えながらのご指導をお願いします。 ○不登校問題については小学校より改善されていると感じています。 ○より多くの生徒が学校に行くのが楽しみと回答できるように、生徒会含めて生徒発信の取り組みを取り入れられると良いと感じ、協力していきたいと感じました。	3
学校力	「連携による学校力」の向上	①育てたい児童・生徒像を具現化する小中連携を一層推進する。 ②コミュニティ・スクールの機能を生かした「学校連携支援部」「学校防災部」による地域連携の推進を図る。 ③自立に向けた学びと育ちを支援する特別支援教育、サポートルーム等一人ひとりに応じたきめ細やかな支援体制を構築する。	3	①小中連携において、教員及び児童・生徒の行動連携企画を少なくとも1回実施する。 ②学校運営協議会主催の取組について、学校連携支援部および学校防災部としての1つ以上の新たな連携事業の実施を目指す。 ③サポートルーム等の運営を行う中で、不登校生徒の出現率3%以下を目指す。➡今年度の不登校出現率は7.8%（2月現在）	①4つの視点（発見すること、決定すること、対話すること、表現すること）の共通した表示、小中連携の日や五地区サミットでの交流を図りながら連携を推進した。2月には、新たな取り組みとして生徒会主催の小中での地域清掃を計画・実施した。 ②府中市防災危機管理課、府中高校と連携した防災学習を実施し、生徒の防災意識を高めることができた。また、地域連携支援としてのボランティア活動及び学習支援を行うことができた。 ③特別支援教室での個に応じた指導やサポートルームの環境整備を行いながら、一人ひとりに応じた対応ができていると感じる。	①児童と生徒の交流の具現化を図ること。また、日常的に教員間の連携を図る方法を検討していく。 ②1年生の防災学習を毎年改善を図りながら実施していく、防災時に行かせるように日頃からの地域との関わり等を増やしていくことが課題。 ③数値の減少はもちろんだが、サポートルームを活用しながら前に進んでいる生徒もいる。卒業後の先につながるような支援の方策を今後も検討していく。	△先生方の大変さは重々承知しますが、先生同士のコミュニケーションがあまり見えてこない。 ○災害時にこそ、地域での連携が重要となってきますので、日頃から防災に目を向けることは素晴らしいと思います。それぞれが当事者であることを認識し、自分のできることを探せるような生徒に育つよう、引き続き連携力の向上に取り組んでいただけるとありがたいです。 ○小中連携含め、積極的に各所と連携していこうという姿が多く見られました。 ○不登校の生徒への指導など個々に難しい課題も、粘り強い対応や検討がされている。	3.5